◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇日本学術会議ニュース・メール◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆
No.988 ｜ 2026年11月13日

■■ トップニュース □□

１．【開催案内】日本学術会議主催学術フォーラム
「洋上風力発電開発のあり方～地質・地盤リスク対応と協働の観点から～」

■----------
１．【開催案内】日本学術会議主催学術フォーラム
「洋上風力発電開発のあり方～地質・地盤リスク対応と協働の観点から～」
----------■

・日時：令和８(2026)年12月15日（火）14：20～ 18：00

・場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

・主催：日本学術会議

・後援：IUGS（国際地質科学連合）、公益社団法人日本地球惑星科学連合、
公益社団法人地盤工学会、公益社団法人物理探査学会、海底地質リスク評価研究会、
International Consortium on Landslides、国立台湾大学海洋研究所、
公益社団法人土木学会（予定）、一般社団法人日本風力エネルギー学会、
一般社団法人環境情報科学センター、公益財団法人日本工学アカデミー、
山口大学地域レジリエンス研究センター

・開催趣旨：

日本において洋上風力発電には大きな期待が寄せられており、海洋再エネ整備法の制定や政府による各種方針の下で、開発は進展している。しかしながら、現在いくつかの重要な課題に直面している。第一に、海域の構造的特性に起因する課題である。欧州に多く見られる非活動的な大陸縁辺域とは異なり、日本は地震・火山活動が活発な島弧・陸弧に位置しており、活動的縁辺域特有の地質・地盤リスクへの対応が不可欠である。第25期においては、これらの課題を踏まえ、地質・地盤災害リスク認知の必要性、体系的ガイドライン整備の必要性、海底地質データの利活用、ならびに人材育成および産学官連携の重要性について見解を公表した。さらに第26期においては、安全・安心を前提とした持続可能な開発・運用の実現に向けたガイドラインに関する見解を公表した。加えて、地域社会との協働の在り方も重要な論点である。本学術フォーラムでは、

これら二つの見解の内容を紹介するとともに、パネルディスカッションを通じて地質・地盤リスクの軽減の重要性、地域連携の課題、海外の動向を含めた議論を行い、洋上風力発電の現状と課題について広く社会の理解を深めることを目的とする。

・次第：https://www.scj.go.jp/ja/event/2026/402-1215.html

・参加費：無料

・事前申し込み：要
　以下のURLからお申し込みください。
　https://form.scj.go.jp/c9e4d7a1-1215.html

・問い合わせ先：
　日本学術会議事務局学術フォーラム担当　電話：03-3403-6289

****
　日本学術会議公式Ｘ
　　https://x.com/scj_info
　日本学術会議YouTubeチャンネル
　　https://www.youtube.com/channel/UCV49_ycWmnfhNV2jgePY4Cw
****
==========

　日本学術会議ニュース・メールは、日本学術会議会員・連携会員、日本学術会議協力学術研究団体へ配信しております。転載自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。
　過去のニュース・メールは、日本学術会議ウェブサイトに掲載しております。
https://www.scj.go.jp/ja/other/news/index.html

【本メールに関する問い合わせ】
　本メールは、配信専用のアドレスで配信されており返信できません。
　本メールに関する問い合わせは、日本学術会議ウェブサイトにお問い合わせフォームがありますので、そちらからお願いいたします。
==========

　発行：日本学術会議事務局　https://www.scj.go.jp/
　　〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34